

検査相談室活動報告（平成18年度）

鷗池由美子¹⁾ 大久保久美子^{1,2)} 川島 博信¹⁾
井手口 裕^{1,2)} 小野 順子^{1,2)}

- 1) 福岡大学病院臨床検査部
- 2) 福岡大学医学部臨床検査医学

要旨：1998年に当院検査部に検査相談室を開設した。専任の検査技師1名と検査専門医1名で運営され、検査部における臨床側への窓口として、また検査部からの情報発信の場として、いろいろな問い合わせや相談に対応している。相談内容は検体、検査方法、検査結果、オーダー、コンサルテーション、その他の6種類に分類し、検査相談記録としてデータベース化している。平成18年度の相談記録を集計、解析した。1年間の相談件数は1,092件で月平均91件であった。相談の回答に資料の収集・調査や、専門領域の医師や技師との相談や判断が必要であったものをコンサルテーションと分類しているが、この件数は年91件で月平均8件であった。最初に相談を受け付けた部署は、相談室が最も多く81%であり、次は臨床化学検査室で13%であった。相談に対する処理は85%が30分以内に終了していた。90分以上は8%であり、コンサルテーションに該当するものであった。相談者は医師が全体の79%で、次いで看護師が13%だった。相談内容の内訳は、オーダーに関するものが36%と一番多く、次に検体に関するもの27%、結果に関するもの21%であった。相談内容を詳細に見ると依頼手順や、検体の提出方法、採取容器に関するもの、検査結果の報告日についての問い合わせ、検査結果の解釈や検査項目の選択についての質問の割合が多かった。相談室は相談に回答するのみでなく、これらの相談内容を分析して、問題点を抽出し、検査部運営の改善にも努力している。これら臨床側からの問い合わせや要望に答えることにより、臨床支援の実践を行っている。

キーワード：臨床検査部、検査相談室、コンサルテーション、臨床支援